

題「未来へ」 D. 1 巻 52
高橋生児の30歳をすぎたのちかきさかんでくおろ

私と美術

D. 1 巻 52

僕は絵が大好きな人だ。子どもの頃から絵を描いてきた。この3年間の進学を通して、もっと絵を描くようになった。今までは絵を見たときは、単に「いい絵だな」とか「この絵が上手い」とか、1つの絵からたくさんこのことを感じることがあった。今では、もっと絵を描くようになった。



題名 成長中
 D組2番 氏名
 この作品の手は何か残っている気がして
 伝えている。だから、将来の行
 になるかは100%で決まっているわけでは
 ありません。だから、これからこの手と
 同じように、おれ自身、中、と自分のペース
 で成長(おれ)いくべきだ、という思い
 でこの絵をかきました。

私と美術
 D組2番 氏名
 僕はサッカーが好きで、美術とサッカー
 には関係があると思う。美術家という人のサカ
 ー選手は、17歳の時に引退した人がある。
 引退したのは、サッカーの創造性がなくなった
 ということ。美術は表現の上で自分を
 表現し、サッカーはフィールドの上で自分を
 表現する。美術はサッカーに勝つための
 1つは、ある。だから、僕は美術の時間を
 大切にしたい。

題 '大丈夫!!' , D組3番 氏名
 ふと見た時に心に伝わるかバグムのある絵にしたいと思
 いました。しかし、ただバグムがあるだけでなく、暖かみ
 のある絵にしたいと思って書きました。制作上の工夫、ホ
 ットな色を使って書きました。これにより、親指だけが印象に残
 るのではなく、手の広さや印象に残るようにしました。次に、
 赤の色とはたき色ではなく、オレンジ色にしてみました。オレンジの方が
 暖かみがある感じがあってやさしい色だと思ったので
 オレンジを使いました。

私と美術 , D組3番 氏名
 私は中学校の美術で作品に対する考え方が変わりました。
 作品を作るかいて様々な技法があり、それ一つ一つを
 使いこなしていろいろな作品にできるようになりました。
 夢が大きくなって印象に残りました。
 美術で僕は変わりをみる力をやしました



題「手の優しさ」

D組 5番 氏名

手の優しさとは、言葉で表現するのは難しい。優しさとは、心から湧き出た、温かい感情を、誰かのために、手を通して伝えることだ。私の祖母は、いつも優しく、手は温かい。その手は、私の心を温かく保ち、愛を伝えてくれた。その手は、私の心を温かく保ち、愛を伝えてくれた。

私と美術

D組 5番 氏名

僕が美術に興味を持ったのは、小学3年生のときだ。先生は、絵を描くのが好きで、毎朝教室に絵の具と紙を置いてくれた。最初は、ただただ色を塗って遊んでたけど、先生は、僕が描いた絵を褒めてくれた。そのときから、美術に興味を持つようになった。先生は、僕が描いた絵を褒めてくれた。そのときから、美術に興味を持つようになった。



第6回 勝利夢と勝利を取らぬために D 組 6 月 18 日

今の僕が一番アレッシャーと名、ていうのは、やはり受験です。僕は三年生の初めごろまでは遊んでばかりで、勉強についてはサボリ気味でした。でも、そんな僕にも行きたい高校があるから、かなり近いけどがんばろうと思って、勉強を始めました。受験校での受験で鉛筆をにきくのは、きき手です。なので、僕のきき手である左手を置くのは大変でした。が、こたえて僕はいくらでも鉛筆を持つ、書きました。一年生の頃は、大きくなり、大きくなりました。それは、格闘のときです。受験のために、ゲームをやめた。今の僕には、大きな格闘があります。それだけなく、希望や夢や執念が、明らかに違いました。そんな思いを、手に握る玉の指で大きくて書きました。また、大きくて大きくて書きました。

私と美術

D 組 6 月 18 日

美術には、夢や希望がこめられていると思います。それだけでなく、絶望や不安をこめるところもあるのか、それだけでも、僕は、その「美術」を死なないことがあまりない。ので、美術に対しては、プラスのイメージを持っています。子供の頃から絵をかいたり、何かを作ったりすることは好きでした。最近では、そのほうが少なくなってきたと思います。いや、今は、僕は美術が好きです。ただ、単に鉛筆で描いた物、描き下しているだけでいいとは思いますが、作品としては、意味のある物にするためには、作品の構想を練り上げ、自分の思いをこめていく必要があると思います。それに、僕は構想を練るの、苦手だと思っています。これは、いいと思ってしまう。アートを思いつく事が少なく、いつもみんなより遅れてしまいます。自然に書きたくなって、本当に自分が表現したいものを表現することができれば、どんなにいいだろうかと、思います。何となく、アートを豊富に練ることが、僕に、僕の「美術」を完成させていきたいと思います。遅くても、遅くても、自分のやりたい事が、表現できればいいと思っています。



題 '上からは見えない' D 冊 7 冊 氏名

小学の頃、両手のみを借りて動物などに見たまじり顔が流れた。
僕の書いた作品は「スネオ君」というキャラクターの顔と両
手のみで作った時に上から見たものであ。
手の反対側から誰か見てもうと「スネオ君」にそっくりだと
言われるのですが、上から見ても分かりません。
もちろん反対側からもうも見えません。

私と美術

D 冊 7 冊 氏名

僕は美的なセンスはないので三年間毎日
手紙を書いたけれどいしてハリアップでささる
手紙が上すたりする人がうがかった。
まげり方（け）もわりと思ふことがあつた。まじり顔
など見たふ感ハ打てがあつた。
二つともまげりのまじりさをうらしたてり（り）。

題名 「もう少しして」... D. 8. 15. 1948

「はい、もう少ししてなにかかつかみとれそう...
それは夢かも知れない。やげないかも知れない。ほか
の向かひはしれない。ひなもてかきかたにしてみてもた
いへん」といふ作品です。

私と美術 D. 8. 15. 1948

ぼくが一番印象深かった美術の授業は3年生のときに小
糸君を見て、どのような手法が使われているのかを、書
で当てる授業で、到玉でそれぞれ意見を話し合つてその
意見をまとめて、当てに行く。とてもおもしろい授業だ
と、3年間の美術の学びを通して、変化した人じゃないかと思
つたかつかひは、それは美術という教科と美術的作品
に対しての僕の価値感です。中学に入つたのころ、僕は美術
が、図工と似たものなんだらうと思つていましたが、全くちがひがあ
つた。図工は本当にただ作り物だけしてしたが、美術は作り
物に込めて深く勉強しました。勉強が、その作品に込められた
価値がわかつた。わかるおたになり、それが楽しくなりました。僕も、
これ、生きていくのに必要なことだと思つた。美術は、それと異に
教へてくれました。



題「僕を育てたこの手」 D 期10巻 54

僕はこの手をうけて色々な経験をしました。
僕はこの手を使って何が一番印象深いかを考えた
所、やはり自分がやって楽しいテニスへと
たどりついた。

どちらの手を書こうか迷んだけど、やはりよく
使う右の手に決めた。

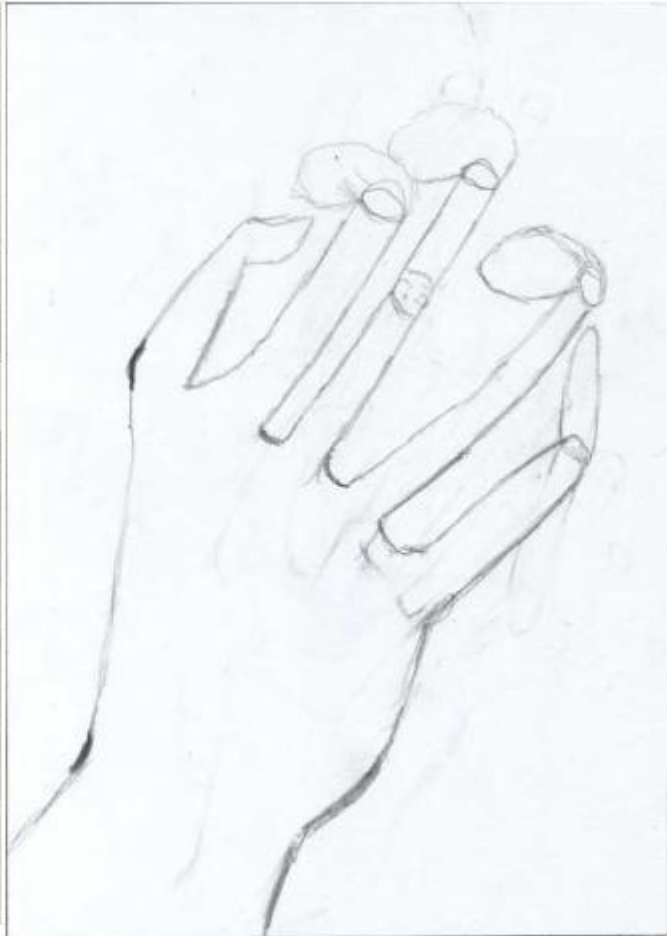
ラケットをにぎる手をもっと表現抜けがいいか迷った
けど、手前におもむきよくて奥の物をうけて
にぎってるのをはっきりやすくするようにした。

私と美術

D 期10巻 54

僕が美術手を中学の時から学習していて、
節でもおたく一つ一つの事に対して、なんでこは
この色じゃなくてこの色なんだ、どう感じる場面
が日常生活にあった。
小学校の時に美術手がじつぱりとしてあったけど、
中学の方がおたく内容がこくて考えさせられるもの
だった。

それに服を選ぶにしても暖色系にしよう
とか美術手の筆を弄れるのが日常生活は
たたく人あることを知って、高校でも進んで色にかた
知っていました。と思っています。



題名

扉

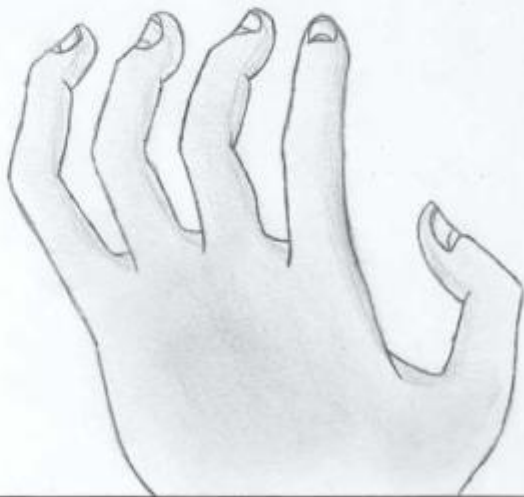
D組 11番 氏名

扉をかけるかと思。たけど、こまが閉いていく扉を
 開けたらには方録い両手でついでいけないう思。と、
 手を戻りながら少しづつこまを動かす。開いてい
 くというイメージを出している。手帳に少しの変化を
 つけたことで動きを出している

私と美術

D組 11番 氏名

美術を3年間やってきた。たけど、その見方と
 思う。トピックスパーを覚える(でも「本質学だ」とか
 思ったり、その見方と、多分何かを覚えるか、ついで
 思う。



題名 右手 D 組 12 歳 男女

僕はこの作品に、中学入学時の自分と今15歳自分を、自分の思いや成長した部分を表現しようとしました。

同じ絵を中学1年生の頃に描いていたことに気づき、三年間で自分はとう変わったのかわかるうてぎんおめて同じ絵がこえたが、線の本一本の長さや太さ、力強さをいささか違えてきて...と思えます。

私と美術

D 組 12 歳 男女

僕は、三年間美術、という教科を学んできました。自分だけの作品をつくる、という行為は教科として学ぶまでも自分の心を表現すれば良いのではないかとと思うようになりました。

小学6年生まで学んできた「図工」はおもしろくて、自分の好きなことを好きなように表現してました。でも、美術、では自分の思いや気持ちをもっと表現するだけでなく、どうすればいいかわからず、そしてうまく自分を表現できなかったという点を解決するための技術・技能を学ぶためのものだと気づきました。

高校へ進学することで、美術に接する機会が減ってしまっていますが、それでも、中学三年間で学んできた力をいっしょに使おうようにし、これからもがんばります。



題名 僕の手 , D 期 17 番 氏名

いつも使っている自分の手を書いてみた。
この手によっていろんなことができた。役に立
った。なのに手全体をスケーチして見た。
手、生命線など細かく書くことでより臨場感が出
て、いい感じになった。
お勤めの「ペンゴ」描きも使わせてもらった。

私と美術

D 期 17 番 氏名

美術を通して新たな自分一面をさがすことができ
見つけ出すことができたと思う。
身の回りに、美術と関ったものが多く、授業で
習ったことや習ったことをリカサすることが少しはできた
と思う。
また、絵を描く時に習った「ドローイング」や「着色」
などの技法は、これから絵を描く時にたくさん取
り入れると思うし、大事にして行きたいと思う。
最後に、私と美術は死ぬまで関あっていくものだ
と思う。



題名 自分の手 , D 18日 月名

人の自分の手の形や強弱を思い出す

何年か前見た時、この手の形はこんな感じを描いて
いたけれど、思えば巧に自分の持っている特徴を入れ込

私と美術

D 18日 月名

何年か前見た時、この手の形はこんな感じを描いて
いたけれど、思えば巧に自分の持っている特徴を入れ込

自分の美術の経験は物外で遠くから来ていたが
芸術美術の空気を聞いてくると、本当に久しぶりの
感じがして、いいと思う。

自分の何年か前見た時、この手の形はこんな感じを描いて
いたけれど、思えば巧に自分の持っている特徴を入れ込

自分の作品をこの時に見て、自分の持っている特徴を
入れ込んで描いたことが、本当に久しぶりの感じがして、
いいと思う。

自分の何年か前見た時、この手の形はこんな感じを描いて
いたけれど、思えば巧に自分の持っている特徴を入れ込



題名 手
D 第 20 冊 氏名

この「手」は私自身を表していて、赤いリボンは「成長」
泡は「様々な感情」です。高校生になり、周りの環境が
自分自身も変わっていくと思います。
成長した自分が触れたところから様々な感情が湧かん
できている様子を表しました。
A2の絵と一緒で手はじんじんしていますが、それはわざと
たいてはA2を選びました。にじませることで、これ程か
「未来」のことでありということでセメントがすめっているよ
うな印象を与えたかったからです。

私と美術
D 第 20 冊 氏名

私は、美術が好きです。
どうしてかは分かりませんが、絵を描いたり構想をやる
のはとても好きです。
デザインを考えたりにいえるよりラッキーができます。
私が美術の授業で学んだことは、「ただ単に好きなだ
け描くのではなく、完成をイメージして、その通りに表
現できるように技法を身に付ける」ということです。
ドライブラッシュや重色などかその一つだと思います。
高校生になってからは絵を描くのはそれなのだと思います。
きっと、一生つきあっていくでしょう。
その中で、もっとも自分表現ができるような技法と
センスを身に着けていきたいと思っています。



題名 あこがれに向かって, D 21 氏名

私は、この作品に将来なすべき自分、あこがれに向かっているところを表現した。作品では、自分の手にあこがれを確かめたい、一生懸命がもうとしている思いを込めた。また、あこがれは、あつい夢になるように中で燃えているように赤をつかい、描いた。そして、周囲の青の部分は、日々うちかてきた努力を表現している。これはあこがれを実現するために必要なもの、今の自分をあきらむすのに必要だと思い、表した。

そして、制作上の工夫としては、あこがれに向かっているという温かいイメージを乗すために、水彩色えんぴつを使用し、せわらかな温かい様子をあらわした。

私と美術

D 21 氏名

私は、もともと、花を描いたりという静物画が好きであった。

この3年間で、絵を描く時に豊かにしてくれることをたくさん学んだ。1年生の時の最初に学習した色の学習では、色のあたかみを感じることであった。2年生の陰影、遠近法を学び、これらの絵を描く時の工夫する点が増えた。そして、3年生のシンメトリーや黄金比についての学習では、落ちつきを持たず工夫などを学んだ。

これらを全て、絵の中に取り入れることは難しかったが、学年があがるにつれて、自分の表現技法とな。こいさ、豊かなものにしてくれた。

これからの生活の中でたくさんの学んだ表現技法を使って静物画を描いていきたい。また、私の生活の中で、美術というものは、生活にうるおいをもたらしてくれるものであると感じた。



題「未来をつかむ手」 D冊23冊 氏名

手を自然に開き、未来に向かって手をのびしている
ようなとろを描きました。
指の関節や影を付け加え、今にも動き出す
ようなイメージで描き進めました。
また、傷や水かきを付け足すことで本物により
近づいたと思います。
そして、作品には15歳の時の思いを忘れずに
この手のように、しっかりとした人になってほしいという
未来への思いを込めました。

私と美術

D冊23冊 氏名

3年間の美術の学びを通して、私は感性を
磨くことができたと思う。今まで絵や美術にあまり興味が
なかったがこの3年間で変化した。
私の印象深かった学習は、撫川うらわです。
カッターで子を切っていくとろは本当にやめようかと思っ
たくらい大変だったが完成したときの達成感はずばらしい
ものでした。完成したとろこみに向かって頑張る
ことの大切さを学ぶことで自分を高めることができました。



題「今」の手 D 組 24番 5名

シートペンは1つで様々な種類の線や影をつくることか
できるので今回、あえてシートペンのみで描きました。

「何かをアモラとある手」というイメージを描きました。
高校入道がこへの期待、不安、喜びなどの
今の時期独特の気持ちを含めて描きました。

私と美術

D 組 24番 5名

美術を学ぶまで、私は「物を見る」ということをあまりしていなかった。
「見る」の数も少なかったし、種類も乏しかったように気がする。
しかし、鑑賞や、スケッチなどの時間を通して、(たいてい)
「見る」ということに対して、しげみはなくなったと思うし、「見る」の幅も
豊かさも、増えたと思う。

美術の時間の「色」の授業は、私達の生活に深く関わっている
と思う。美術の勉強を通じてからは、見のまわりのものが、ちがって見え
るようになったし、何か作品を製作するときにも、とっかかりに立
た。美術の勉強が良かった、と思う。



題「緊張しての手」 D 25日 氏名

私には手と心はつながってきている。
物を持つ時、支える時、握る時、そのあつと
ゆるむ時。

常に私には手と心は通っている。手がなげれば何を
する時も不自由だ。

この手がかかるといふ機会に、自分の手をよく見てみた。
動作の速くは、やわらかく、かたまった手を見取
れた。指の先の赤みなど、和かい色のエスモした。
「わがもこの手と一緒に生きていきたい。」

私と美術

D 25日 氏名

美術の学びを通して、色の感じが豊かになった
と思ふ。上へこの表現技法を学んだ。

重色、ドラッグス、ムラ、おサケ、ムラ、コントラストなど
から表現して、自分の表現したいものをより自分らしく表現す
ることができた。補色の関係なども分かった。

私は音楽が好きで、エレクトーンも習っている。

美術は芸術的な感性を養ってほしいので、和かいと、
閉鎖性のある教材は、これからはこの中学校で
学んだことをまわしていきたい。



題名 5人 , D 組 26 日 氏名

ずと音楽が好きで、小さい頃からピアノを弾いていて、中学校3年生になった時に「バンド」という形で音楽にチャレンジしました。仲の良い5人ということもあり、楽しく練習しました。

その5人で、悔いはいくらもあるものの舞台にたて、自分達が出せたことがとてもうれしくて、達成感がありました。その5人での活動を「団結」ということで5人の「手」にした。

私と美術 D 組 26 日 氏名

初め、美術といえば「デッサン」、そのイメージしかなかった。わたしが絵を描くのだと思う、ていた。でも3人絵も描いたけど、まず学習したのは「アイデアを広げて、その中から一つをもと、具体的にふくらませる」ということだ。小学校の時からいうと、広げて深める。

その考え方は、美術だけではない、自分の考えを広く持て、その考えを大切にしていくことは大事だと思った。

それを美術で学んだのと、これからの人生で心に留めたい。



題名 サヨナラ D 2017 国語

この作品を制作する際、色の使い方に気を付けた。
 手、手の色は、緑系の色やベージュ系の色など、何種類かの色を使、立体感を出した。暗い所と明るい所を表現するために、グラデーションのようにしたことで、肌のあたたかみを出せたと思う。
 そして、草の色は、緑の色と明るい色を交互に置いて、全体の色合いが整うようにした。

作品のテーマとしては「シンプル」「透明感」「自然」というようなことを意識して描いた。ガラスや草、咲いた手は草、手だけが現実と意味していて、「夢のような世界の中で、自分の身で現実を生きている」ということを表現した。

附き絵はほかのもの、けさにはあめな季節を出すにためた。

私と美術 D 2017 国語

3年間の美術の学習の中で、私は「作品を見る」といふことが、どういふことなのかを知れたと思う。

小学生のときは、その作品が何を表したもので、色や形がどうなっているか、それのよしか悪し取ることはなかった。でも、中学の美術の時間を通って、その作品が表しているもの、意味や、色使いの工夫、形の本など、より深く作品を味わえるようになったと思う。そのおかげもあり、以前より作品を鑑賞することを楽しめるようになったと思う。

また、作品を作る中で、表現する際の難いのが分かった。どう作るかと考えたときに、なかなかいいと思うものが見つからないことが多くあった。小学生のときは増えた。

それだけでなく、作品を作るときに、色を大切に、丁寧に、細かく表現になるのかを、しっかり考えられるようになった。それによって、よりよいアイデアを探せるようになった。だから、中学校の美術で学んだことは、これからの自分のこと、大きな意味を持っていると思った。



題「かさなる手」 D 組 28番 氏名

「人だけの手、カサせてはいけないこと」の限界点は人によって変わるけれど、こう近い。でも「みんなの手、カガあればできること」の範囲って思ったよりもとても広い。そう思って手からこれを連想しました。丈夫な点は、線を同じシャープペンでも木こを交えて、女子らしさと男子らしさを出したところですよ。

私と美術 D 組 28番 氏名

最初美術の授業が始まる前は、スケッチのイメージしかありませんでした。でも、始まってみたら色彩や描法など奥が深くて様々なことを知ることができました。重色の勉強や色をつくる勉強などはもともと「色」というものが好きで、私にとってすごく楽しい勉強でした。今やっているゆめたまこではその色の勉強の成果を発揮することができ、自分でも満足のいく色を何色も作ることができてとても嬉しかったです。高校に行っても、この中学で学んだ事を生かして、深めて行きたいと思っています。



15歳という、私自身がこれまでの力をもち、何者にもなることのできるの
 が分からないうけれど、自分の未来を考えると今はなるなという、微妙な
 感情を抱けるように頑張りました。まず、手の色を青と緑の両色を混ぜて、
 不思議な雰囲気を出し、内に秘めた自分の力を表現しました。
 そして、その上に黒を重ねることで、底がはかりたなり。という意味
 をこめました。私自身の周りを囲む青色を、普通にぬるだけでなく、枝
 の長を布でかこえて、ツタの模様をつけました。羽でかかっているのは羽
 です。今とコントラストをして、よりとちらも極立つように暖色を用いまし
 た。羽には「将来の夢や未来に向かてははたかた」という希望を
 こめました。そこで、かわらなく暖かな温もりを感じることができるよう
 何色も色を重ねました。

私と美術

私は美術の時間が大好きでした。なぜなら、自分のその時の思いや感情を
 表現することのできる方法が学べるからです。
 私が美術の学んで印象深かったことは3つあります。
 1つめは文字をデザインしたこと。自分の名前・好きな言葉を明朝体や
 ゴシック体などを習った経験を生かすことのできました。その言葉から
 感じるイメージを広げて作成したことで、言葉の持つ意味に
 ついて改めて考えました。また、その文字を色彩やスポンジ
 などの方法を意識して表現することができました。
 2つめは遠近法を習ったことです。一点透視・空気遠近法を
 馬鹿にすることで、以前より風景画が上手く描けるようになり
 描くことが楽しくなりました。
 3つめは素描・水彩画の技法・色などの基礎を学んだことです。
 一年生の時に基礎をしっかりと学んだことが、2・3年の美術の時間
 に生かされています。そして、これから 作品づくりをする上での
 土台を築くことのできました。



鉛筆を持つ手 D 30 頁

中学校生活ではほとんど鉛筆ではなく、シャープンを使用したのですが、鉛筆を使った小学生の頃を思い出し、初心にかえろうという思いを込めました。

製作上の工夫では鉛筆と手の固さの違いや影になっているところと削りやすいところの差をきちんと分かるように工夫しました。

私と美術

D 30 頁

中学生に作るまでしたことのないことと多くすることができ、美術に興味を持つことができました。

右こうで型を取って、金属の何かをつくることも初めて体験することもできましたし、選択の授業では備前焼きも体験しました。

今までは美術というと絵とか彫刻とかの難しい物というイメージがあり、苦手なのであまり好きではありませんでした。けれど、糸ノコ木の板を加工したり、和紙をつかいてうらわしを作ったりと、工作のようなものを美術行なうのということが分かり、絵が苦手でもできる美術があるということを知りました。



8 あたにかい手 D 31 頁 氏名

地球上のどんな人間も真の心のあたにかこそ持、といはと私は思
います。どんなに豊いとも心のどこか小さなところにはやさしさ
などのあたにかがあると思おす。なご私はこの手に人の心の
あたにかの色の裏面とならう赤色やピンクをうかしました。
また真実に掛け合いながら人間はまきまき、というこをあらわ
したか、たのりだけだなく2の手を描きました。

私と美術 D 31 頁 氏名

私は名め、笑から「手を描きなさい」と突然言われたことを今
も覚えています。私は子供のころから絵を描くのが好きでした。
どうにも自分の思うようには描けず、たんだん絵を描くという
ことからはなれていきました。そこで先生に「手を描け」と言われ、す
ごくつまりました。描き終えた手、は人間らしくなかりうま
かたせんとした。しかし三年間、美術の授業を通して、私はだんだ
んと美術、といきました。絵を描くことは時、全体をとらえて描くことと遠
流をかけるなど世のなごを学ば、最後を描くということがだんだ
んと楽しくなりました。私は中学3年間で絵を描くことに上手いや
下手など関係なしに自分の表現したいことを書くはいいのだというこ
も学びました。今私にとって美術とはどんな自分の気持ち表現
の、とて楽に面白く思える存在となりました。



題名 未来への不安

D 第32番 氏名

是れを通り高校生活を不安に思う気持ちを描きました。
このポーズにした理由は、固く握られたこぶしから
緊張感や感じを感じてほしかったからです。
握っている様子が見えるようにアングルにもこだわりました。
色を使わず陰影のみで描いたのは、この方が雰囲気
が良い、つめを並べて皮にしわが寄っている様子が台カク
易く描けると思ったからです。

私と美術

D 第32番 氏名

美術科というから鑑賞や絵画、昔の像などというイメージ
だったイメージがなく、とても固いのだと認識してしました。
しかし、中学の勉強を履して、技法は絶対に使わなければ
ならないものではなく、自分の意志を表すために使われる一
の道具であり、工夫の仕方はいくらでもあることを知りました。
今回の作品では学べたことをしっかりと生かしたと思
います。

それによって美術とは音楽と同様に人を幸せにしたり自分の想
いを伝えるための手段だと思えます。これからは美術科という
勉強をして、伝えるだけでなく、くみ取れるようにしたいと思
います。



題「目標へ向かって」 D 33 頁

今は夢に向かって少しずつ前進しているときなので、夢がかなったとき、希望に満ちあふれるといういいなと思、たので描きました。

指が光に変わると手の形も徐々に変化させるゆえと夫とを合意を考えたりました。

私と美術

D 33 頁

美術では色の組み合わせやアイデアを考えることが多かったのどじっくり着目してやっていくのが大事だと感じました。

絵を鑑賞するときに色のつかいや線や点の技法も使っているのかまじることができよくなりました。

2年生のときにやった、筆を動かすときの力のかけ方などがとれおもしろいので印象に残っています。

美術には興味、絵をみにい、たりしたときに描くと思います。

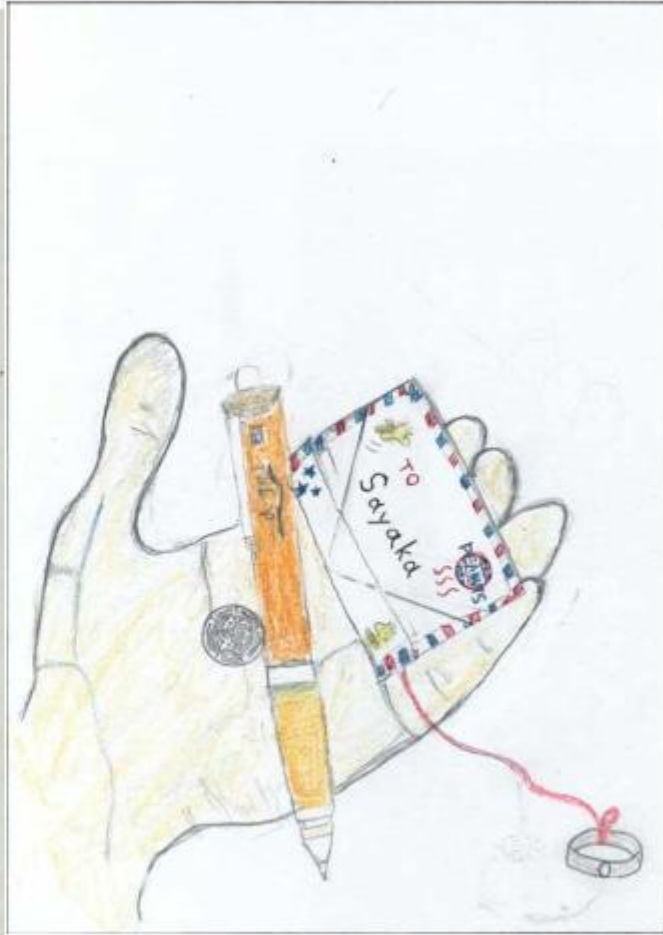


題名 物にたくして D 冊 34 冊 5巻

今15才の私が大切に思うことを物に例えてみました。
○手紙の親友
○中1から使い続けたシャーペン 勉強
○附中のバツミの学校生活 附中で出会った全て
これを手にとり、守りたい、持ちたい、でもこぼれ
落さず、という意味をもたせました。
指の1人かくは太く描いて「守りたい、守りたい、でも70の変わり
肌色を黄、白、黒の3色の線に「守りたい、守りたい」という
イメージ。
結論は小指の赤い糸でつながせて、まだ手の中にはない
けれど、確かなつながり、つながり、つながり、つながり、つながり、つながり、

私と美術 D 冊 34 冊 5巻

特に「楽しかった、上手にできた瞬間」
①「任せてみよう、楽しいかニ、回、あの時、あの瞬間」
①「佳川うさぎ」です。
理由をいいます。
① 友と助け合いながら、ホリ製と使ったアイデ
ア、4とありにつけたから。
② 家族のイメージどおりのような色を考えたのが、
そして満足できる表現になったから。
③ にじみです。ごく上手に「黄白」を表現でき、
みんなにも「キレイだね」とほめられたから。
美術の時間では、このように制作の時間が大半
でしたが、私は鑑賞も好きです。
高校生に、かたう鑑賞の方にも力を入れて、
自分なりに分析したり、鑑賞レポートみたいなもの
をつくって、おもしろいと思います。



題名 道 , D冊35冊 氏名

この絵は、私の人生を表しています。
まず、親指が「現在の私」、人差し指は「明るい未来」、中指が「暗い未来」、薬指と小指は「過去の私」です。私の未来は明るく、楽しいことも暗く、辛いこともあります。時には、過去を思い出すこともあると思います。また、その先には無限の可能性が秘められているので、背景の色は真、白のままにしました。
これから先はどんな道であっても、自分の力でしっかりとまっすぐ立って人生を歩んでいきたいという思いを込めました。

私と美術 D冊35冊 氏名

私は3年間附中での美術の授業で学んできたことがたくさんあります。
まず、1番自分の力になったことは「感性」です。私はそれまで絵などをみても何とも感じていませんでした。しかし、今では「なぜこの色を使用したのか」「この絵を通して何を表そうとしているか」など絵をみて次々に疑問がわいてきて、深く考えるようになりました。
また、「技法・技術」の面も向上しました。それまではただの絵かきのようにしていましたが、今は自分は何を表したいのかを考慮、それが表現できる技法を選んで作品をつくるようになりました。
私にとっての美術は、心を豊かにし、自分にかぎりがかけられるものです。これから先もさっさと進めることはないと思います。



将来

D. 30 氏名

私は将来、大人になったときに「何か仕事かしたい」と思っています。「書く」なのか「描く」のかはまだ決まっていますが、将来そういう人になんかして何か鉛筆をにぎってばかりです。

なので今回は鉛筆をにぎっている線、鉛筆を描かなくてもシャーペンか何かでいいし、実際に書いているか分からないからです。

一番上のは未来で、左手で描きました。自分はあまり出来た人間ではないので未来を想像すると期待よりも不安の方が上回ります。なので自分に何かあってほしいなと思います。あえて普段使わない左手を使いました。

私と美術

D. 30 氏名

昔から絵は上手な方だったので、美術の時間を通して色々な技術を学ぶことができました。

絵の具を使うのは苦手でしたが授業を通じてからは少しづつ色彩が分かってきたように思います。また使うのは苦手ですが、これからは線を描くために授業を思いだして描くと思います。ありがとうございます。



題名	未来へ	0 期 37番 氏名
----	-----	------------

この作品は未来に向けて生かすことを
表したい。未来を光で、光が手を照らす
いほうにしました。明るい未来を作りたいことは
自分(私)とあという意味も込めました。
最も明るい光(光源)は右上の白色(黄色)の
まぶしいところを、手に最も近い手の部分の
滑らかな部分を薄く、光にあたることを
表した。また、生命感を出すために、
手の肌色で塗り、光にあたる部分は
描くかりました。まわりを白と黄色のグラデーション
黄色を濃く、全体的に明るい感じを表しました。

私と美術	D 期 17番 氏名
------	------------

美術は自分の思いを形や色で表現する
難しい学習でした。最初は思うように表現
できませんでした。3年間、学ぶことで
うまく表現できるようになりました。
いろいろと題材を通して、いろいろと力を
つけることができたと思います。
美術は自分の思いを表現する大切な
手段だと思っています。



題 1
私の中の光 D 題 評語 良

自分の未来を光にたとえ、それを片手でしかり、でもやさしくにぎりしめている様子を描きました。手の光がもたしている様子を表現するのがむずかしく、えんがつを指でこすって浮かしたあと、けしゴムで光のすじをかくように消しました。でも、そうすると、手の輪がくぼくぼくする。ネリして、その調整が大変でした。また、光のすじを入ると、手の陰がぼくぼくかきなくて、立体感がなくなる。という、何度も納得するまでかきました。

私と美術 D 題 評語 良

美術の授業では、作品をつくらたり、作品を鑑賞したり、美術の知識を小やしてりました。
作品づくりでは、表現したいものを考えるために自分を見つめ直したり、それまでの人生を振り返り、色々な良い思い出を思い出すこともあつた。そして、苦労したけど、時間をかけて、良い作品をつくらつくれたと思います。
作品の鑑賞では、作者の意図をくわしく、分析したりしました。
また、色や形についてくわしく学ばした。その学ばした作品作りを取り入れたりして、作品をより豊かなものにしました。
私にとって美術とは、自分を見つめなおすチャンスだと思います。これからの美術に関わることがおこると思つても、そのたびに自分を見つめ直し、人生を豊かなものにしていきます。



題「あたにかい手」 D 組 39番 氏名

周りの数字や英語は3年間と学んだことを表現して、手に持っている花や草は、周りで交えてくれた人への感謝の気持ちを表しています。また、明るい色をたくさん使って、楽しい日々を表現しています。手は立体的に見るようには影をつけたり、丸く書くようにしました。

私と美術 D 組 39番 氏名

私は初め、美術は、絵を描くことが中心だと思っていました。でも、授業を兼ねて絵に草花やブロッカーを作り、美術の色んな面を見ていると、美術はとても楽しい！と思いました。また、私は絵を描いたときの細かい合点することが好きなので、将来、趣味にしたいと思います。私は3年間の学習を通して、美術のたくさんの面や、技術などを習得することができたので、これからの高校生活でも生かしていきたいです。

